

## 広島空港で新システムが運用開始 悪天候時に威力を発揮

6月5日、広島空港の高度計器着陸施設(CAT-Ⅲa)の運用が開始されます。

標高330mの山間部に位置する広島空港では、濃霧や悪天候により、欠航や着陸地変更が多く発生していました。この問題を解消するため、滑走路上の視界距離が200mあれば、自動操縦により着陸できる新システムの整備が進められていました。全国では成田国際空港、熊本空港、釧路空港などに続き6番目のCAT-Ⅲaの導入となります。

CAT-Ⅲaの設備は、人工地盤、灯火設備、無線設備などがあり、約80億円をかけて整備されました。人工地盤とは、航空機からの電波を適切に反射することにより、地上からの高度を認識させるもの、無線設備は航空機に滑走路からの角度、距離、進入コースを精密に知らせる役目、灯火設備は視界不良でも滑走路がよく見えるための設備です。視界不良時には、これら3つの設備に合わせ、パイロットの技量や航空機の自動操縦装置の性能などすべてが揃って初めて安全な運航が可能になります。

最近10年間の平均で、悪天候により欠航や着陸地を変更したものは、年間で約75便あります。そのうちの9割程度が解消され、梅雨入りを前に利用者の利便性が大幅に向上します。



▲新システムの設備(人工地盤と灯火設備)  
欠航や着陸地変更の9割程度が解消されます



## 防災ネットワークを設立

4月28日、住民生活の基本となる「安全・安心」の確保に向けて、防災関係団体が日常から情報交換などにより緊密な連携を図る中で、地域の防災力の向上を図ることを目的に、三原市やボランティア連絡協議会などの9団体が「防災ネットワーク」を設立しました。

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震の被災者の事例などを聞いて、人材育成の重要性を痛感したボランティア連絡協議会らの呼びかけにより、平成18年3月6日に設立準備会を発足し、平成18年度と平成19年度に各6回の防災講座や年1回の防災講演会を開催し、防災に対する意識の啓発に取り組んできました。

今年度は、引き続き防災講座や防災講演会などを実施し、自主防災組織率の向上や「地域の防災リーダー」の育成に努めるとともに、平常時から関係機関と連携を図り、相互支援体制を確立することにより、災害に備えます。

構成 団体 (9 団体)	ボランティア連絡協議会
	赤十字奉仕団
	社会福祉協議会
	ボランティア・市民活動サポートセンター
	福祉のまちづくり推進協議会
	地震防災リサーチネット
	自主防災組織連絡協議会
	消防本部
	三原市

## 7月に幼児プールがオープン

須波西町のすなみ海浜公園内に建設が進められている幼児プールが今夏完成し、7月5日にオープンします。

海を眺めながら楽しめる幼児プールは、滑り台のある水深70cm(188㎡)と水深50cm(76㎡)の部分があり、どちらにもスロープで降りられるようになっています。

そのほか、噴水のある水遊び場などもあります。

利用期間は7月5日(土)～8月31日(日)の9時から17時(7月5日は13時30分～17時)までで、入場料は無料です。

